

ここでは、介護や福祉に関するあらゆる相談を受け付け、医療機関や行政との調整、各種サービスの提案などを行い、住み慣れた地域での暮らしを支援します。

地域包括支援センターさちの森の渡邊さん(認知症地域支援推進員)は「認知症の人が増えても、一人一人の力を生かした地域づくりができた」と考えています。今後の目標は「当事者一人一人の支援を通じて、さまざまな人が立場や価値観を越えてつながり、やがて地域がつながっていくことです」と、真っすぐな思いを語ってくれました。

事業所	所在地	☎連絡先	担当地域
地域包括支援センター寿山荘	住吉町5-10	(62)9655	黒磯・厚崎(一部)*
稲村いたむる地域包括支援センター	東原166	(60)3361	稲村・高林*
地域包括支援センターあぐり	鍋掛1416-3	(73)2550	豊浦・厚崎(一部)*
地域包括支援センターさちの森	野間453-23	(60)1333	鍋掛*
地域包括支援センター秋桜の家	大原間83	(65)2972	東那須野*
西那須野西部地域包括支援センター	上赤田238-658	(37)8183	西那須野西部
地域包括支援センターとちのみ	井口533-20	(37)1683	西那須野東部
しおばら地域包括支援センター	下田野282-6	(35)3745	塩原

※黒磯地区の担当地域は公民館区です。

認知症地域支援推進員って
 どんな人？

認知症の人が住み慣れた環境で暮らし続けられるように、医療や介護をつなぐ支援をしたり、本人や家族からの相談に応じたりする役割を担います。

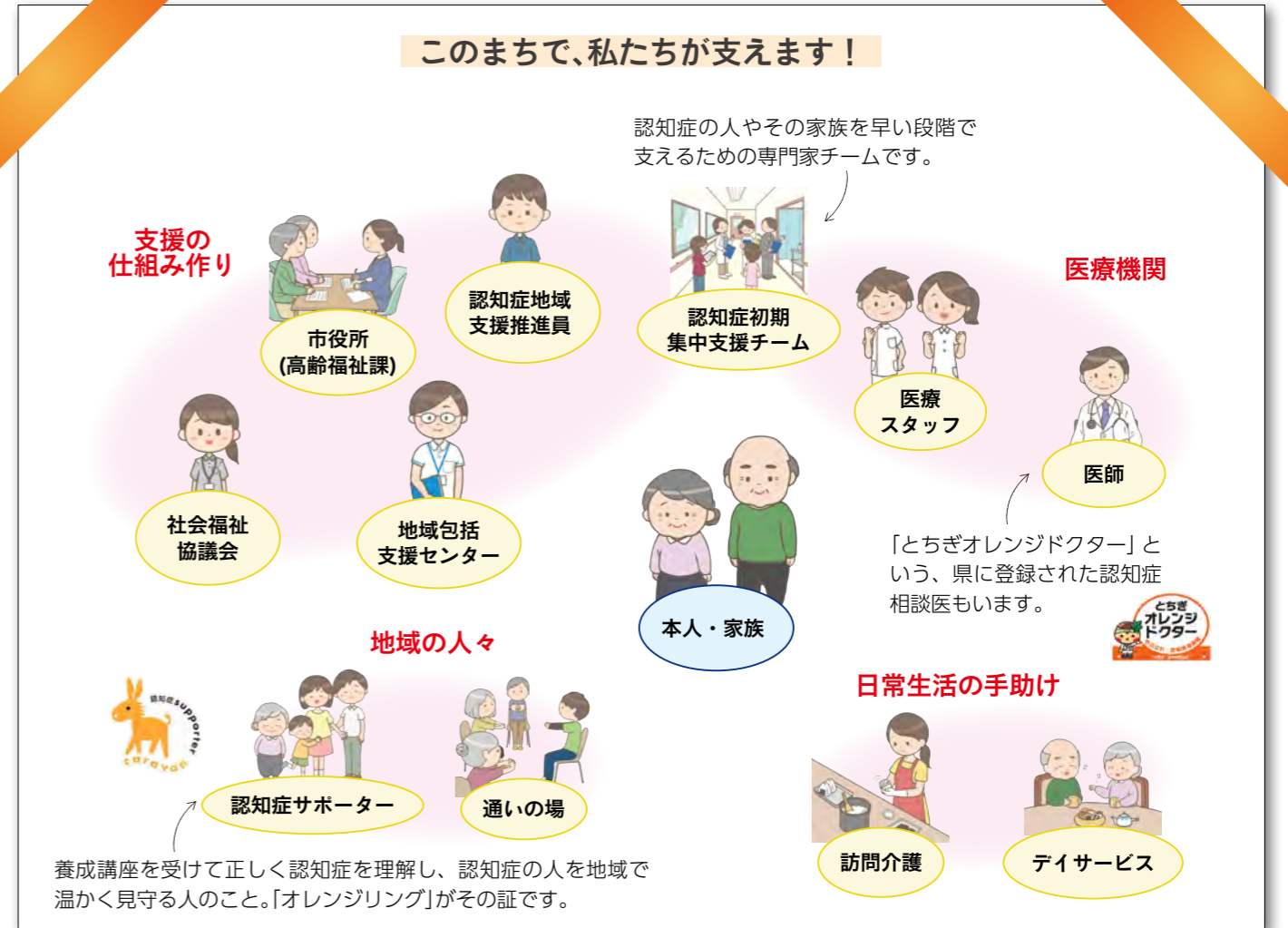


詳しい資料は☎高齢福祉課で配布しています。

2 認知症当事者を支える

身近な人が認知症になったとき、症状への対処や受けられる支援など、知りたい情報は多いもの。このまちには、診断から介護サービスの利用まで、幅広い分野で支えてくれるたくさんの人たちがいます。

このまちで、私たちが支えます！



地域発！当事者の集い **その悩み、抱え込まないで——**

オレンジドアにしなすは、認知症と診断された人やもの忘れが気になってきた人のための「当事者の集い」。参加者は、診断を重く感じ悩んでいる人から、葛藤を乗り越え、経験を明るく話せるようになった人までさまざまです。

こうした集いに参加すると、悩みを解消するだけでなく、公的なサービスのスムーズな利用にもつながります。運営に関わっている地域包括支援センターとちのみの遠藤さんは、「ぜひ症状が軽いうちに相談に来て、仲間とつながってほしい」と提案しています。



同じ目線で話すからこそ、気持ちを分かち合い、前向きになれます。

参加者の声

今までは認知症のことを気軽に話せる人がいなくて、ただ自分と闘うしかないと感じていました。しかし、この会で同じ認知症の人と知り合えて、心が晴れ晴れとしました。こんなに親切にしてくれる所があって、ありがたいです。(70代男性・要支援1)

当事者が作る「お互いさま」の居場所

オレンジドアにしなす

とき	毎月第1・3火曜 午前10時～
ところ	旧すこやかデイサービスセンター(健康長寿センター敷地内)
参加費	1回 200円

▶問い合わせ
 市社会福祉協議会 ☎0287(37)5122

認知症の兆候が表れたら、早期診断・早期対応が肝心。それは、症状が進行すると、本人が「どんな支援を受けたいか」を考える、貴重な時間が奪われてしまうからです。そんな認知症の人を支える役割は、次のような人たちが担っています。

○医療機関
 診断や治療方針の決定、服薬の管理などを行い、症状を軽くしたり、進行を遅らせたりします。

○日常生活を手助けする機関
 部屋の清掃・食事の準備などを補助するほか、自宅以外の居場所を作ったり、外出の楽しみを提供したりします。

○支援の仕組みを作る機関
 認知症の人に関する相談に応じたり、関係機関と協力して、その人に合ったサービスを提案したりします。また、住民同士が助け合って暮らせるような地域を作り出します。

適切なサービスを受けることで、認知症になっても、今の暮らしを続けられる可能性が高まります。気軽に、地域包括支援センターに相談してください。

さまざまな分野で支える